

宇宙産業の現状と見通し

2025年6月

1. 私たちの生活に欠かせない宇宙産業

- 天気予報や衛星放送、カーナビ、スマホやインターネット、位置情報・・・私たちの生活には人工衛星を使った観測、測位、通信データが欠かせない。
- 以前の宇宙開発は官主導だったが、近年は「Star Link」(SpaceX社) や「Project Kuiper」(Amazon社) など、**民間資金による人工衛星の打ち上げが急増**。今後は自動運転やスマート農業、気候変動、都市開発、防災・減災などへと市場が拡大していくと見込まれている。
- 近年のトレンドは静止衛星軌道から低軌道へ、大型の単体衛星から小型衛星コンステレーション (注) へと変化。よりシームレス、タイムレスな情報通信網が構築され、衛星データを活用した様々なサービス提供が可能になっている。

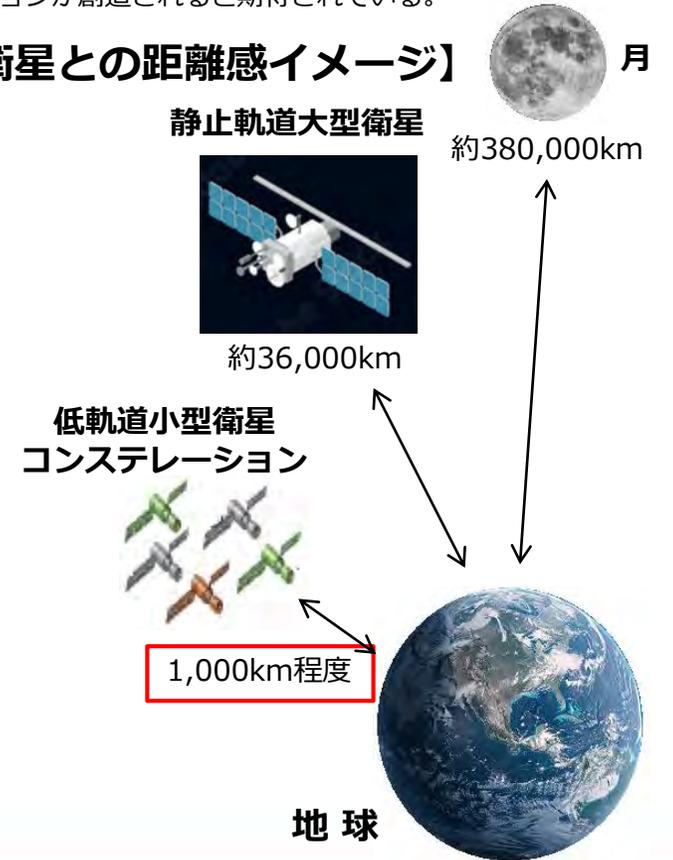
(注) 小型衛星コンステレーション：小型衛星を大量に打ち上げ、一体的に運用してデータの取得量・通信量を増大させることで、広い範囲を頻度高く観測することが可能。コンステレーションによって観測から利用までのリードタイムが大幅に短縮されるほか、データの蓄積・活用が進むことで多様なソリューションが創造されると期待されている。

人工衛星等の打ち上げ数推移



(出所) 内閣府「宇宙輸送を取り巻く環境認識と将来像」(2023年6月)

【衛星との距離感イメージ】



2. 宇宙産業の市場

- 宇宙産業は人工衛星や宇宙輸送機（ロケット）の製造だけでも多様な部品が必要で裾野が広いほか、打ち上げ支援、ロボットアームなどの軌道上サービス、衛星データを活用したソリューションなど、**ハード・ソフト合わせて多くの商流が発生**している。
- 世界では既に91兆円の市場があり、2035年には260兆円規模になると予測。日本の宇宙産業市場はおよそ4兆円とされており、政府は2030年代の早期に8兆円へと倍増させる計画。短期間で急速な市場拡大が見込まれている。

【宇宙産業のイメージ】

製造



衛星バス（箱）
姿勢制御系
推進系
電源系
通信機器
センサー 等

軌道上サービス

スペースデブリ除去、衛星修理・推進力付与 等

通信衛星

小型衛星コンステレーションにより高速・大容量化

衛星データを活用したソリューション

安全保障、防災・減災、SDG's、エネルギー、産業DX etc...

【宇宙産業の市場規模】

【世界】



2023年

1兆7,900億ドル
約260兆円

2035年

【日本】

4
兆円

現在

8兆円

2030年代の早期

(出所) 内閣府「宇宙産業における今後の取組の方向性について」
(2025年2月)、US\$1 = 145円で換算

【衛星通信で広がる未来】

【通信インフラからの解放】

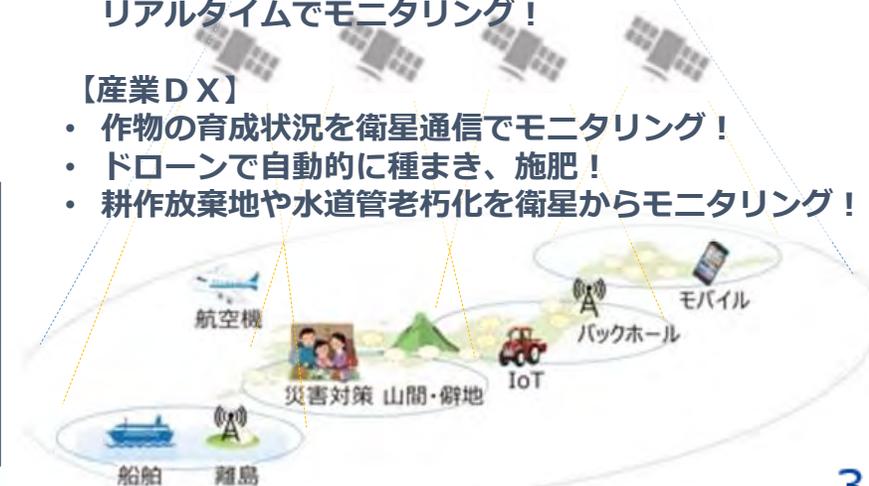
- 離島や船舶・航空機、通信インフラの整備が困難な山間・僻地でもスマホが使える！
- どこでもリモートワーク、地方への移住を促進！

【災害対応】

- 災害予測などの精度が向上！
- 地震で通信インフラが破壊されてもスマホが使える！
- 被災地に人が入れなくても、被害状況を衛星からリアルタイムでモニタリング！

【産業DX】

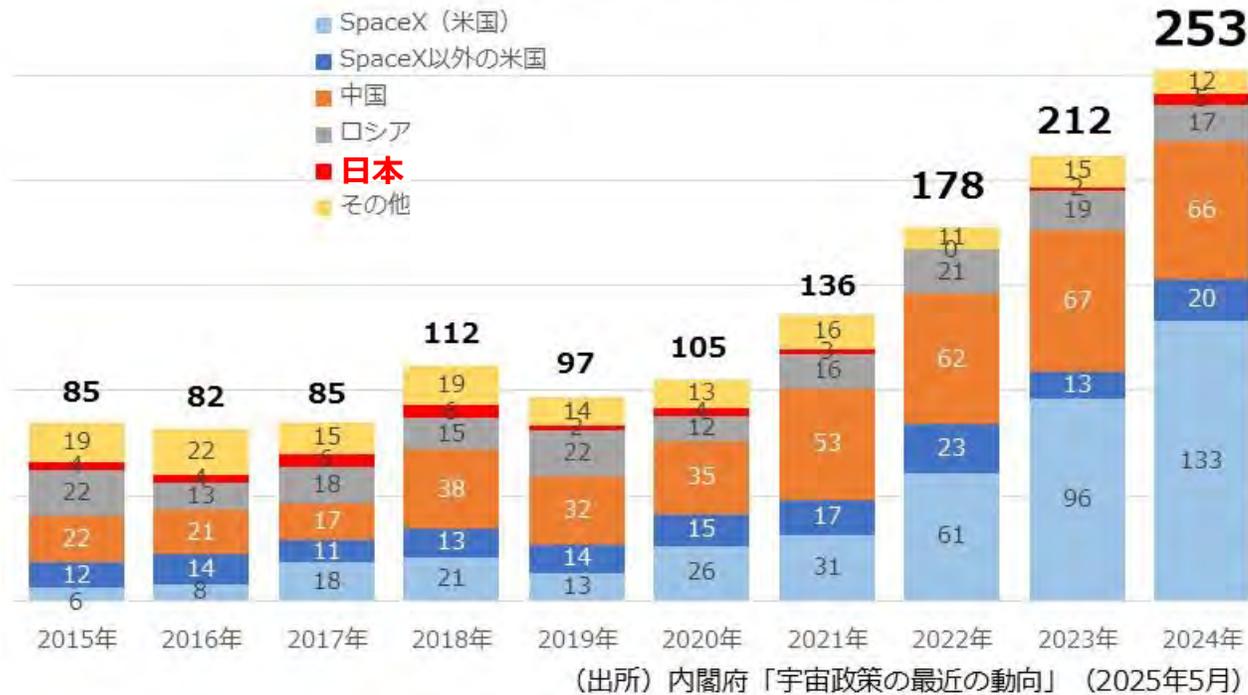
- 作物の育成状況を衛星通信でモニタリング！
- ドローンで自動的に種まき、施肥！
- 耕作放棄地や水道管老朽化を衛星からモニタリング！



3. 宇宙産業の課題

- ロケットの打ち上げが急増する中、打ち上げの射場は世界的に不足。特に日本では、民間の商業ロケットの打ち上げは全て海外で行われており、国内での宇宙港・射場等の整備が求められている。
- 衛星データの利活用も進んでおらず、世界的な潮流と市場形成に後れを取っていることも課題である。
- 政府では、①衛星コンステレーションビジネスの加速化、②民間ロケットの輸送能力強化、③衛星データ利用ビジネスの促進のため、予算を配分して様々な取り組みを進めている。

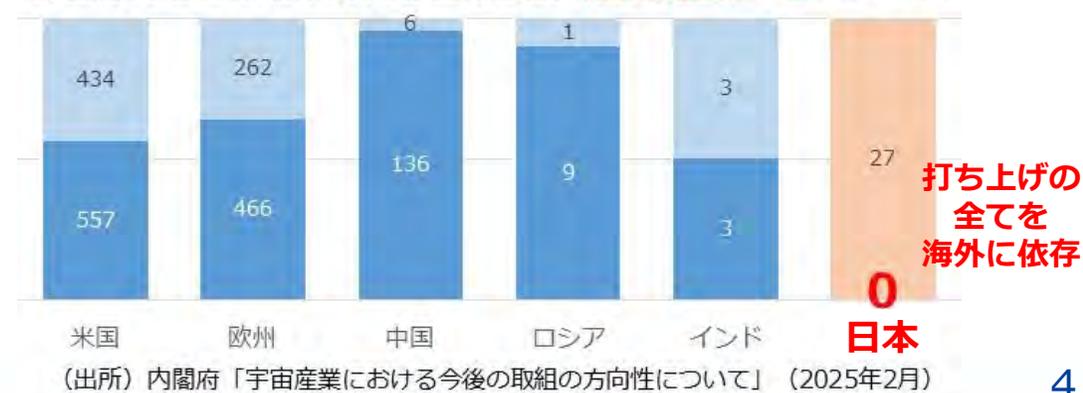
国別 年間ロケット打ち上げ回数の推移



各国の打ち上げ場所別打ち上げ回数 (政府衛星)



各国の打ち上げ場所別打ち上げ回数 (商業衛星)



4. 宇宙産業と地域経済

- スタートアップ企業や地元自治体等が中心となって各地でロケットや衛星の開発・製造が進められており、企業と自治体の連携、地域ぐるみでの取り組みなどが進められている。
- 今後の衛星・ロケット打ち上げ需要が飛躍的に増加すると見込まれる中、世界的にスペースポート（ロケットの射場）が不足しているを受け、日本各地でスペースポートの整備計画が進行中。産業の裾野を広げるとともに、交流人口の増加などによる地域活性化を目指した取り組みが増えている。

ロケット開発・製造

【インターステラテクノロジズ】（北海道）

- 自社でエンジン等コア技術を開発。
- 大小部品は日本各地の中小企業と連携。

【植松電機】（北海道）

- ロケット試験設備を設置、JAXAなどに提供。

衛星開発・製造

【QPS研究所】（福岡県）

- 世界でトップ5に入るレーダー衛星企業。雲があっても、夜であっても地上が撮影できる衛星を開発。
- 25社以上の企業とサプライチェーンを構築。自動車用シートの縫製を行う企業も参加。

地方自治体が推進する宇宙産業

【航空宇宙クラスターの形成】（山口県）

- 2015年に発足。機械加工や板金、3D金属・CFRP造形等の技術ネットワークを形成。

【大分県航空宇宙産業参入研究会】（大分県）

- 地元企業が九州工業大学のプロジェクトに参加し衛星を製造、2018年打ち上げ。

地域で支えるロケット打ち上げ

【和歌山県】

- 小型ロケット開発のスタートアップ「スペースワン」の射場がある。
- 県と串本町、那智勝浦町、地元企業で「スペースポート紀伊周辺地域協議会」を組織、2024年12月の打ち上げ当日には交通渋滞整理と見学イベントを開催、約1万人を集客。

スペースポートの整備

【北海道大樹町】

- ロケット開発のスタートアップ「インターステラテクノロジズ」と連携し、大樹町に「北海道スペースポート」の整備を進めている。

【福島県南相馬市】

- 宇宙関連産業の集積とともにスペースポートの整備を目指す。

【和歌山県】

- 成長産業として、県を挙げて宇宙産業の創出に取り組む。ロケット開発のスタートアップ「スペースワン」を軸にスペースポート紀伊を設置。

【大分県】

- 大分空港の宇宙港化を目指し、米国ロケットの打ち上げ誘致に取り組む。

5. スペースポート高知

- 2025年2月、「**アジア最大の宇宙玄関口を高知に**」をスローガンに掲げ、「スペースポート高知プロジェクト」が始動。四国銀行も会員となり、高知県におけるスペースポートを核とした宇宙産業の集積と、地域の産業とのシナジー創出を骨子としたビジョン・政策の提言を目指している。
- 現在、「**2029年高知に宇宙港開港へ！ 壮大な挑戦をカタチに！**」と題し、スペースポート全体の模型制作を目指したクラウドファンディングを実施中（7月15日まで）。
- スペースポートの整備・運営には巨額の投資が必要であり、整備費用の調達と初期投資を回収できるビジネスモデルを構築することが課題である。



【スペースポート高知プロジェクトのロードマップ】



(一社) スペースポート高知
ホームページはこちら⇒
<https://spkochi.org>



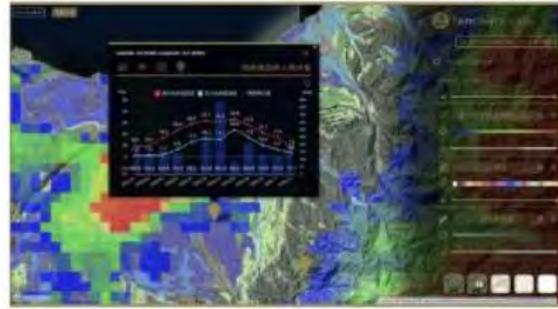
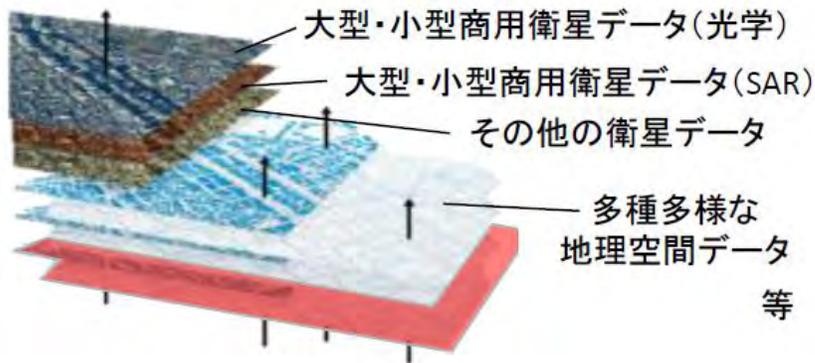
クラウドファンディングはこちら⇒
(2025年7月15日まで)



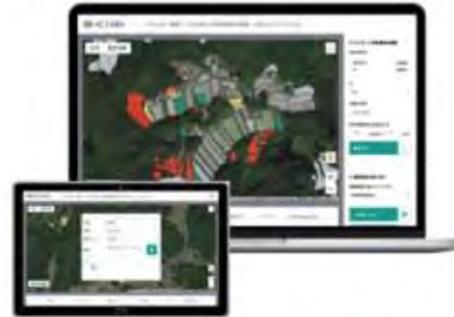
6. 誰でも無料で！衛星データの活用 ～Tellus～

- 「Tellus」は、経済産業省の委託事業で立ち上げられた政府衛星データのプラットフォーム。ユーザー登録をすれば、誰でも無料で衛星データを活用することができる。
- 水道管の老朽化や耕作放棄地の確認等に衛星データを活用するビジネスモデルなどが実用化され、契約する自治体も出てきている。
- 2024年度には、衛星データ利用ビジネス促進を目的とした懸賞金事業が行われた。一位賞金は1,000万円！
- アイデア次第でいろんな可能性が！あなたも試してみませんか！？

【Tellusの衛星データイメージ】



再生可能エネルギー事業分野における適地評価システムの社会実装



衛星リモートセンシングによる耕作放棄地検出・作物分類サービスの高度化実証



<https://locationmind.com/>

衛星画像×船舶・トラックデータによる港湾物流モニタリング・予測ツール開発

Tellus ホームページはこちら⇒
<https://www.tellusxdp.com/ja/>

